

ソフト開発管理支援ツール

データを自動収集・分析

問題発生状況グラフ表示

奈良先端科学技術大学院大学の鳥居宏次特任教授らのグループは、ソフトウェア開発プロジェクト支援ツール「EPM」を開発した。開発データの自動収集と分析を支援するもので、開発の進捗よくや問題の発生状況をグラフ表示する。プロジェクト管理の知識や経験が少なくても、ソフト開発の現状を把握し、プロジェクトの混乱や品質の低下を回避できる。すでに、連携企業2社での適用実験を終えた。開発作業を妨げず、低コストでソフトの開発過程を客観的にとらえられるなど有用性が確認されている。

ソフト開発管理は経験も多く、ソフトの高信頼性になっている。鳥居特任もほかの工学分野と同様に計測や定量化、評価、

フィードバックといった実証的手法の確立を目指してきた。

開発は文部科学省の

「データ収集に基づくソフトウェア開発支援シス

テム(EASE)」(研究代表者＝鳥居特任教授)プロジェクトで行った。

た。

EPMはオープンソースソフトウェアとして公

開。EASEプロのホームページ(www.empirical.jp/research/emp.html)から無料でダウンロードできる。